

## 都市環境の快適性に関する市街地住民意識の調査結果

九州共立大学工学部 学生会員 永野 匡史  
九州共立大学工学部 正会員 片山 正敏

### 1. はじめに

都市生活者にとって、水の音や風の音は、時として心地良く感じることもあれば、不快に感じることもある。快適で住みよい都市環境の創出にあたっては、このような音環境の快適性にも配慮した、基本計画が大切である。この観点から、都市環境の快適性に関する市街地住民の意識についてアンケート調査を実施したので報告する。

### 2. アンケート調査の概要

北九州市の市街地住民に対するアンケート調査の概要を表-1に示す。調査場所は北九州市の黒崎・八幡近辺の市街地区においてアンケート調査票を配布・留置・回収の方法により行った。

### 3. 回答者の属性

#### (1) 回答者の性別、年齢

回答者の性別は、女性：61.7%、男性：38.3%と、女性のほうが多い。年齢では、20歳代の回答者が28人と一番多くなっている。(図-1参照)

#### (2) 回答者の職業

回答者の職業は、会社員、学生、専業主婦がそれぞれ24人で多くなっている。反対に少ないのは自営業の5人である。

### 4. 川の音に関する快適性

川の種類(自然・人工)による水の音について、「小川のせせらぎの音」と「人工的な河川(用水路など)を流れる水の音」との比較をした(図-2参照)。小川のせせらぎの音では、回答者の60%近くの人が、「非常に快い」と回答しているが、人工的な河川では、「普通」という回答が、回答者の半分近くを占める結果となった。

市街地住民にとっては、自然の小川のせせらぎの音のほうが、快く感じられていることが分かる。

川の流れの速さによる音の快適性については、「緩やかな川(下流)の音」と「速い川(上流)の音」との比較をした(図-3参照)。緩やかな川の音のほうが、「快い」と約60%の人が回答している。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	北九州市の黒崎・八幡近辺の市街地住民
調査期間	平成15年8月中旬～9月中旬
調査方法	居住地を訪問し、配布・留置・回収により行った。
調査項目	属性3、雨の音に関する快適性9、川の音に関する快適性6、海の音に関する快適性8、その他の音に関する快適性4、その他の都市環境についての快適性10 (合計40項目)
配布数	122部(有効回答部数 107部)
有効回収率	87.7%

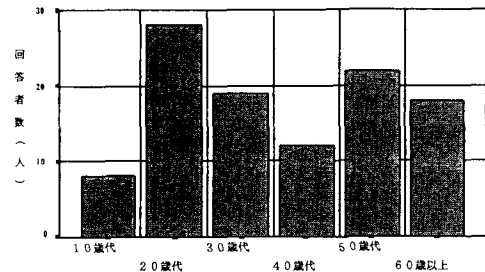


図-1 回答者の年齢

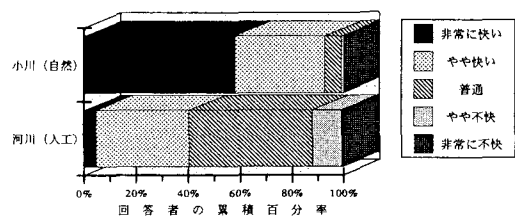


図-2 川の種類(自然・人工)による音の快適性

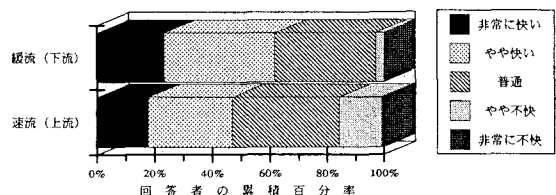


図-3 川の流れの速さによる音の快適性

## 5. 海の波の音に関する快適性

自然砂浜海岸、自然岩場海岸、垂直岸壁での波の音を比較した(図-4参照)。自然砂浜海岸の回答は、“快い”と答えている人が8割近くいることが分かる。また、自然岩場海岸でも7割を超える人が“快い”と回答している。このことから、7割以上の人が自然海岸に生じる波を快いと感じていることが分かる。

垂直岸壁での波の音では、“快い”と回答している人が、4割未満と自然海岸での約半分になっている。

このことから、海の波の音については、人工海岸よりも自然海岸での音の方が快く感じられていることが分かる。

## 6. その他の音に関する快適性

その他の音に関する快適性について、「滝の流れる音」について検討した(図-5参照)。回答者の36%が“非常に快い”と回答し、40%の人が“やや快い”と回答している。“普通”と回答している人もいるが、“不快”と回答しているのは、2%だけである。

## 7. その他の都市環境に関する快適性

その他の都市環境に関する快適性については、「昼間の交通騒音」と「夜間の交通騒音」とを比較した(図-6参照)。昼間の交通騒音では6割近くの人が、夜間の交通騒音では6割以上の人が“騒がしい”と感じており、昼間の交通騒音よりも、夜間の交通騒音のほうが騒がしいと感じていることが分かる。

## 8. SPSSによる分析結果

SPSSを用いて、「波の音に関する快適性」に関して、コレスポネンス分析を行った(図-7参照)。分析した項目は、砂浜、岩場、垂直岸壁での波音、嵐で荒れている時、過ぎ去った時の波音、朝・昼・夜の波音についての快適性の8つである。砂浜、岩場での波音、朝・昼・夜の波音の快適性に対しては、同じような反応を示しており、快く感じている。逆に、嵐で荒れている時の波音は、“不快”と感じていることが分かる。垂直岸壁、嵐が過ぎ去った時の波音については“普通”と感じているようである。

## 9. まとめ

市街地におけるアンケート調査を行い、住民の都市環境に対する快適性についての意識を知ることができた。自然の環境のままの音に関して、市街地住民は非常に快く感じていることが分かった。すなわち、小川

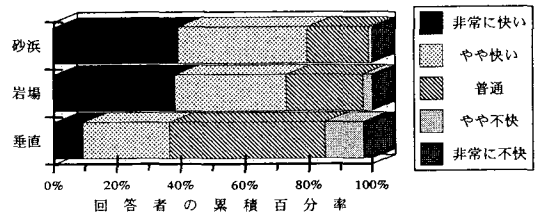


図-4 海の波の音の快適性

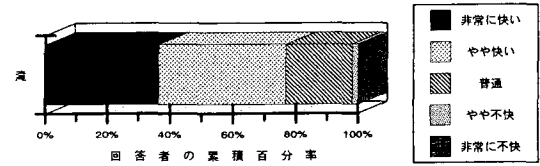


図-5 その他の音に関する快適性

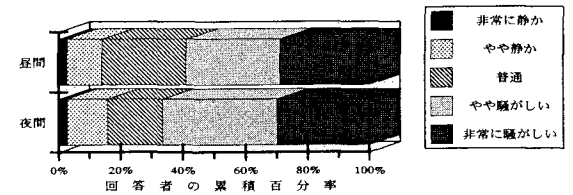
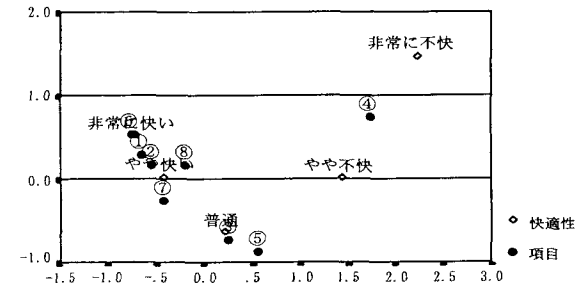


図-6 交通騒音に関する快適性



- ①: 自然砂浜海岸での波の音、 ②: 自然岩場海岸での波の音
- ③: 垂直岸壁での波の音、 ④: 海が荒れている時の波の音
- ⑤: 嵐などが過ぎ去った時の波の音、 ⑥: 朝の海の波の音
- ⑦: 昼の海の波の音、 ⑧: 夜の海の波の音

図-7 コレスポネンス分析(波の音に関する)

のせせらぎの音、朝の海の波音、自然砂浜海岸での波音、滝の流れる音の順に“快い”が多かった。

都市環境についての住民意識は、地域によりかなり違ってくるため、今後さらに調査が必要と思われる。